

平成 23 年度

協働推進ワークショップ等  
委託事業  
報告書

小金井市市民部コミュニティ文化課

# 目 次

■ 1	事業の概要	1
1)	背景と目的	1
2)	事業の内容	1
3)	体制	2
■ 2	協働推進ワークショップ	3
1)	ワークショップの開催日程	3
2)	ワークショップの開催概要	4
3)	ワークショップ参加者のアンケート結果	17
4)	ワークショップの成果と課題	19
■ 3	市民活動団体情報運用の先進市調査	21
1)	ヒアリング調査の日程	21
2)	ヒアリング調査の概要	22
■ 4	市民活動団体リスト作成	26
1)	作業のすすめ方	26
2)	情報の整理	27
3)	市民活動団体登録用紙の送付、回収および入力	27
4)	冊子の作成	27

# ■ 1 事業の概要

平成 23 年度協働推進ワークショップ等委託事業の概要を以下に整理する。

## 1) 背景と目的

平成 21 年度協働推進支援調査委託は、市内の NPO 法人等の市民活動団体等に対して、協働に関するアンケートやヒアリング調査を実施し、その課題等を把握し、市民に有益な協働事業の展開に資することを目的として実施した。

平成 22 年度は、協働の機運の増進を図るため、仮想の公園づくり等をテーマにしたプレワークショップを実施し、その後は、市民協働のあり方等検討委員会（以下、「検討委員会」という。）が実施した庁内アンケートの結果、協働事業として研究したい取り組み 3 事業を選定し、市民と行政が同じテーブルで話し合い、協働事業の可能性を探ってきた。

そこで、平成 23 年度の本事業では、これらの状況をふまえ、協働推進ワークショップ（以下、「WS」という。）を継続実施し、また市民協働に資する市民活動団体リストの作成を行った。

なお、本事業は、ふるさと雇用再生特別基金事業として、平成 21 年度から 23 年度の 3 カ年の継続事業である。

## 2) 事業の内容

本事業は、検討委員会、市民協働支援センター準備室（以下、「準備室」という。）、本市の協働の推進を牽引している NPO 法人連絡会等と密接に連携しながら実施した。

また、行政と市民活動団体等が、具体的に協働を進める立場で、市民の要望をふまえて話し合いを進め、その内容を検討委員会にも適宜報告した。

### （1）協働推進ワークショップ

協働推進 WS の実施、運営に際しては、話し合いの進捗に合わせて資料作成等を行い、協働事業実現に向けて、企画提案書を作成した。

- ①平成 22 年度に実施した協働事業推進に向けた WS を引き続き開催し、事業化に向けて話し合いを進める協働事業については、継続的に支援を行った。
- ②WS における話し合いにおいて、特に協働推進にかかわる課題等についてまとめ、その内容について検討委員会に適宜報告した。

## (2) 市民活動団体情報運用の先進市調査

協働推進に取り組む自治体のヒアリング調査を行った。

- ①市民活動団体の情報一覧を作成している自治体のうち、相模原市、小平市、調布市の三市の担当課および中間支援組織に対し、その作成の目的、作成の手順、情報公開や更新の方法などについてヒアリング調査を実施した。

## (3) 市民活動団体リストの作成

協働推進に向けて、市民等からの問い合わせや行政が協働相手の調査等に活用できる市民活動団体リストに必要な団体情報等の収集、とりまとめを行った。なお、収集した資料は個人情報を含むため、第3回、第4回情報公開・個人情報保護審議会に諮問し、その取り扱いに細心の注意を払うとともに、情報の公開について公開範囲の可否を確認する等の作業を行った。

## 3) 体制

本事業は、ふるさと雇用再生特別基金事業として、NPO法人 ひ・ろ・こらぼと委託契約を締結し、地域から雇用者を雇い入れ、本調査に役立つ情報を共有するとともに、スキル等の向上に配慮しながら作業を進めた。

### ○ふるさと雇用再生特別基金事業

地域の雇用失業情勢が厳しい中で、地域の実情や創意工夫に基づいて地域求職者等の雇用機会を創出する取組みを支援するため、都道府県に対して「ふるさと雇用再生特別交付金」を交付し、これに基づく基金を造成する（基金は平成23年度末まで）

- ・地方公共団体は、地域内でニーズがあり今後の地域の発展に資すると見込まれる事業のうち、その後の事業継続が見込まれる事業を計画し、民間企業等に事業委託を行う。（地域の当事者からなる地域基金事業協議会において事業選定等）
- ・民間企業等が求職者を新たに雇い入れることにより雇用の創出を図る。

## ■ 2 協働推進ワークショップ

平成22年度に行った協働推進WSは、検討委員会が実施した庁内アンケート調査の結果から、協働事業として研究したい取り組みを抽出し、取り扱うテーマに位置づけ、話し合いにより検討を進めた。

今年度は、各事業の実現に向けてのWSを引き続き実施し、事業としての具体的なとりまとめを行った。

本WSで検討した協働事業は次の3つである。

- ① 樹木廃材粉碎事業
- ② コミュニティポータルサイト運営事業
- ③ (仮称) ロケーションサービス事業

これら3事業について、事業ごとのグループワークで体制や進め方などの検討を進めた。その概要を以下に整理する。

### 1) ワークショップの開催日程

今年度のWSは3回実施した。その日程は以下の通りである。

第6回WS (H23年度1回目)	日時：平成23年4月23日(土) 9:30~12:00 会場：前原暫定集会施設A会議室
第7回WS (H23年度2回目)	日時：平成23年5月21日(土) 9:30~12:00 会場：前原暫定集会施設A会議室
第8回WS (H23年度3回目)	日時：平成23年7月2日(土) 9:30~11:30 場所：小金井市役所第2庁舎802会議室

また、このWSの進捗や話し合いの概要は、検討委員会委員の参加も仰ぎ、適宜共有しながら進めた。

本WSでの話し合いのルールについて、昨年度と同じ内容の確認を行い、話し合いを進めた。話し合いのルールを以下にあげる。

### ○話し合いのルール

1. 参加者は自由、活発に意見や提案を出しあいましょう。
2. 他人の意見や提案を批判するのはやめましょう。
3. 「〇〇して欲しい」ではなく、「〇〇したい」という建設的な提案をしましょう。
4. 量も大事です。たくさんの意見、提案を歓迎しましょう。

今年度の3回のWSを経て、事業の実施に向けて継続的に話し合っていくことが確認されたのは、(仮称)ロケーションサービス事業のみであった。

## 2) ワークショップの開催概要

次に、3回のWSの概要を整理する。

### (1) 第6回WS「つくっていこう！協働事業」

第6回WSの開催概要を以下に整理する。

- 開催日時：平成23年4月23日（土）9：30～12：00
- 開催場所：前原暫定集会施設A会議室
- 参加者数：25人

### ○プログラム

9：30	開 会	○あいさつ
9：40	ふりかえり ～前回までの話し合いから～	○事業ごとに確認 ・話し合いはどこまで進んだか ・課題の確認など
10：00	グループワーク 事業ごとの話し合い	○事業ごとに3つのテーブルに別れて ・協働事業に向けての課題を再確認 ・事業企画をさらにまとめよう
11：30	発 表 ～グループごとに～	○話し合いの流れ、方向を紹介 ・提案などを紹介、共有
11：50	閉 会	○あいさつ ・次回案内など

○会場の様子



(仮称) ロケーションサービス事業のグループ



樹木廃材粉碎事業の話し合い



樹木廃材粉碎事業の発表



コミュニティーポータルサイト運営事業の発表

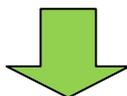
次ページから、グループ毎に話し合っ発表した内容をまとめる。

## ■樹木廃材粉碎事業

参加者：9名

### ●三楽公園集積場について

- ・三楽公園横緑地は個人所有の保全緑地で、市が集積場として一部借用している。騒音・集積チップからの昆虫発生などで、近所からのクレームも多く、現在の状況で土地を利用し続けるのは困難。
- ・平成 23 年度中に公園の樹木廃材は剪定業者に最終処理（剪定→廃材処理）までを全面委託、三楽の集積場をなくす予定。
  - 樹木廃材の粉碎が行なわれなくなる
- ・これまで集積されたチップと堆肥は第 4 小学校の畑の土壌作りに使用されることが決定している。



### ◆三楽公園集積場、樹木廃材粉碎事業がなくなる！

- ・WS当初に課題に上がった、街路樹・学校・施設等の剪定枝については？
- ・シルバー人材センターが、家庭からの依頼で剪定したものは産廃として処理している。

### ●落葉について

- ・場所、収集、腐葉土化の臭い問題などを解決していく必要がある。
  - 梶野公園の集積場を利用することができるのでは？

### ●今後について

- これまで話しを進めてきた「市民の目に見える循環システムづくり」の目的は変えない。
- 落葉の腐葉土化については検討できる。
- 市内の公園を題材にできる事はないか

## ■コミュニティポータルサイト事業

参加者：7名

### 運営団体組織の役割

- ◆ネットワークをつくる
- ◆アイデア、面白いモノを探す
- ◆参加を呼びかける

#### ○枠組みづくり

- ・コンセプトを明確にする
- ・活動の担い手同士がコミュニケーションを深める場を作る
- ・協働のインフラ・軸は決める
- ・運営会議の立ち上げ

#### →運営の規約作成

#### →ポータルサイトのフレームワーク

#### ○サイトのとりまとめ

- ・サーバー・ネットワークの管理
- ・コンテンツ取材と製作、範囲チェック
- ・市民レポーター募集取りまとめ
- ・サイト作りの協力
- ・参加できる・しやすいシステム

### さらに

- ・自己資金の確保
- バナー広告の営業
- スポンサー集め
- ・活動の担い手のネットワーク化
- 活動の担い手への協力依頼

### ○小金井の現状は？

- ・インターネット普及率は約68%
- ・市のHPを利用しているのは子育て世代が多い。

### 活動の担い手が行うこと

#### ○広報活動

- ・広報、チラシをつくる、ポスティング
- ・市外の知人友人にも知らせる
- ・情報の発信の公平性を図る
- ・庁内にも知らせる、参加をよびかける
- ・ポータルサイトトップページ案の公募
- ・活動イベントなどの情報発信
- ・事業の活動内容の発信

### 課題として

- 第三者のチェックは日常的なものではなく年に2回くらい。(放送倫のように)
- ネット環境にない人はどうする？
- 作る側、見る側どちらの視点から話を進めるか？作る側として何が出来るかを考える。

### 事業費に対する成果

- ・事業費に対する成果をどう確認するのか。
- 市HPよりアクセスが多ければよいか？
- 市への問い合わせの件数が減ればよい？

### 目標は？

- コミュニケーションのツールとして
- ・サイトの構築、運営を通じてのコミュニケーション
- ・目標は情報のディーラー、郷土愛は副産物的なもの
- ・自分の問題を一緒に解決、地域の活性化、人と人のつながり
- ・ニーズを把握して最終的にはバランスの取れたサイト
- ・行政の縦割りを超えるシステム

開いた  
運営

■（仮称）ロケーションサービス事業 参加者：9名

○市民主導の事務局体制

- ・メリット：爆発力、活動が広げやすい
- ・デメリット：継続性の不安定さ、活動資金の確保

○構成：複数の専任者→代表者1名、コーディネーター2名（代表が兼ねても良い）

事務スタッフ→数名（総務、財務ほかの事務仕事）

専門家→映像関係の専門家、コンサルタントの専門家など（オブザーバーとして）

行政側の窓口→関係各課のとりまとめ等（事務局内にいなくてもよい）

商工会とのパイプ役（事務局内にいなくてもよい）／その他民間の協力

実働する市民ボランティア→10名程度（リーダー）

○活動内容

期間	市民	事務局	行政
<b>立案期</b>	<b>OWSで企画案づくり</b>		
<b>準備期</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロケ候補地情報提供</li> <li>・準備室スタッフに公募</li> <li>・既存団体、NPO団体等との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営母体づくり、窓口の設置</li> <li>・スタッフの組織化</li> <li>・まちあるき</li> <li>・候補地の情報収集、開拓、発掘</li> <li>・実績調査</li> <li>・売り込み先調査、リスト化</li> <li>・ロケ候補の調査</li> <li>・専門家の発掘</li> <li>・準備室の設置（公募市民・専門家・協力企業、関係各課）</li> <li>・規約・ルールづくり（利用者、スタッフ）</li> <li>・人脈づくり</li> <li>・既存団体、NPO、大学との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窓口の一元化システムづくり</li> <li>・予算確保</li> <li>・関係各課から準備室に参加</li> <li>・東京都との調整</li> <li>・学校施設撮影使用の調整</li> </ul>
<b>初期</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティア公募</li> <li>・部門別、役割別に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広報の強化（内外ともに）</li> <li>・ロケ候補地の情報発信</li> <li>・ロケの誘致</li> <li>・ロケが来ることの周知など</li> <li>・WEBサイト立ち上げ</li> <li>・情報の追加、更新</li> <li>・ロケハン立会いシステムづくり</li> <li>・施設・環境の保全、保護</li> <li>・他市のFC等との連携</li> <li>・エキストラの組織化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校へのPR</li> <li>・(仮称)ロケーションサービス条例づくり</li> <li>・保護指針、条例づくり</li> </ul>
<b>中期</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロケ発開発、手配</li> <li>・イベントの誘致</li> </ul>	
<b>長期</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業評価の指標づくり、システムづくり</li> <li>・ジブリとの連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語看板の設置</li> </ul>

## (2) 第7回WS

第7回WSの開催概要を以下に整理する。

○開催日時：平成23年5月21日（土）9：30～12：00

○開催場所：前原暫定集会施設A会議室

○参加者数：26人

○プログラム

09：30	開 会	○あいさつ
09：40	ふりかえり	○事業ごとに確認 ・話し合いはどこまで進んだか ・事業企画案の概要を全体で確認
10：00	グループワーク 事業ごとの話し合い	○事業ごとに3つのテーブルに別れて ・事業企画案の内容を再確認 ・今後の取り組みスケジュールをつくる
11：30	発 表 ～グループごとに～	○話し合いの流れ、方向を紹介 ・事業計画案の修正ポイントなどを報告 ・今後のスケジュールを紹介
11：50	閉 会	○あいさつ ・アンケート

## ■樹木廃材粉碎事業 参加者：9名

### ●樹木廃材粉碎事業中止について担当課からの説明

- ・公園樹木廃材が剪定業者に最終処理（剪定→廃材処理）までを全面委託、三楽の集積場をなくす → 樹木廃材の粉碎が行なわれなくなる
- ・落葉については、現時点で梶野公園集積場利用しての腐葉土化については検討できない

### ●ワークショップ（1～7回）の経過と経緯

環境政策課からの協働事業提案「樹木廃材粉碎事業」

#### ■ワークショップ第1回目 2010.11.13

現在の市内樹木廃材（公園・街路樹・学校など）の回収および処理についての確認

##### 【まとめ】

- ◇産廃で焼却するより、全て有効活用したい
- ◇市民や市内の農家も利用できる循環型システムがいい

#### ■ワークショップ第2回目 2010.12.04

処理のほとんどが委託業者が行っているため廃材が「どこへいくのかわからない」ことが判明

##### 【まとめ】

- ◇廃材全てを有効活用する（庭木・公園・街路樹など）
- ◇市内全体で利用できる循環型システムの構築をめざす

#### ■ワークショップ第3回目 調布市集積場の視察 2011.01.17

各家庭の庭木や公園などの樹木廃材回収～チップ化の流れ、チップ後の処理を学ぶ  
…協働でこのシステムをどのように導入できるか考え、検討していきたい

#### ■ワークショップ第4回目 2011.02.25

※「各家庭（ごみ対策課）→市内全戸の完全業者委託が決定された」と環境政策課より報告

家庭の庭木以外（学校・街路樹・施設など）の樹木を検討、現在の集積場で出る公園樹木から始めてはどうか

##### 【まとめ】

- ◇樹木廃材を燃やさずに市内で有効活用するための資源循環
- ◇市民への自然への意識向上につながるようなイベント等も行う
- ◇まずは『三楽公園集積場』をモデルケースとしてやってみよう

#### ■ワークショップ第5回目 2011.03.05

##### 【まとめ】

- ◇目的…市民の目に見える市内循環システムづくり
- ◇目標…まずは三楽公園集積場の処理、落葉の腐葉土化を市民が関わり活用できるよう

にすること

◇動かす=体制づくり

◇三楽公園のチップ粉碎を見学し、現在のチップ化作業と集積状況を確認しよう

■三楽公園樹木集積場見学 2011.03.17

三楽公園樹木集積場の樹木粉碎作業の見学。剪定業者さんから話しを伺う

■ワークショップ第6回目 2011.04.23

※「公園の樹木廃材は剪定業者に最終処理（剪定→廃材処理）までを全面委託し、三楽の集積場をなくす→樹木廃材の粉碎が行われなくなる」と環境政策課より報告

【まとめ】

◇これまで話し合いを進めてきた「市民の目に見える循環システムづくり」の目的は変えない

◇市内公園を題材にできることはないか

◇落葉の腐葉土化については検討できるのか

■ワークショップ第7回目 2011.05.21

今回の協働事業の中止について、双方が合意して終了。

## ■コミュニティポータルサイト運営事業

参加者：5名

### ○コミュニティポータルサイト 今後のスケジュール（案）

平成 23 年	市民・市民団体	行政
6月		
7月	企画検討	補助金としての予算を確保
8月		
9月		9月の議会で補正予算を請求
10月	プロポーザルに応募	プロポーザル募集
11月		団体の選定
12月		
1月	運営議会立ち上げ	運用開始

体制を決めていく  
⇒予算手続きへ

年間 300 万円程度  
(月 10 万 × 二人 + α)

地域への関心、愛着に  
つながっていく

### ○事業の概要と流れ（予定）

#### 募集团体の要件

- ・ 規約
  - ・ 収支報告（過去三年分）
  - ・ 企画提案が行えるスキルがある
  - ・ 活動内容の履歴・実績
  - ・ 法人格は？
- ⇒ハードルが高い？  
⇒NPO 法人連絡会のような組織は参加応募できる？
- ・ 市長が認めるもの

#### 補助金について

- ・ 委託契約ではなく、補助事業として行う
- ・ 申請、協定  
⇒補助金としての報告は必要
- ・ 補助金としての成果  
⇒改善案を出していく
- ・ 収益事業も想定している

#### 「協働契約」とは？

- ・ 協働事業の委託契約のあり方について、検討委員会で検討される。
- ・ 協働事業のきっかけになるもの。

#### 今後の流れ

- ・ 9月の補正予算を目指して7月には方向性を決める。
- ・ 広い参加を呼びかけ、ロードマップを作る。
- ・ 庁内の IT 作業部会で体制等について検討を進める。

広く市民と協働していく⇒開いた運営

■（仮称）ロケーションサービス事業

参加者：12名

○企画案について

事業名	要検討	
目標	「地域の活性化に寄与する」と入れるか？ ・抽象的になる。 ・「人・物・金が動く」と具体的に出しているのよい	
役割	市民	◆参加を募る ・運営体制の構築に向けての検討、積極的な提案などを行なう ・関連する小金井市の情報の受発信に努め、参加を募っていく
		◆参加する ・本事業の取り組みに積極的に参加する

○市民主導のデメリット 安定性・継続性が不安 =金 キャッシュフロー

行政予算	・「まちづくり」として予算組み ⇒ ●行政の予算措置に頼らない
稼ぐ	・行政から市外へ向けた広報事業を受託する
	・市民、企業からの出資 ・企業の広告料 ⇒●目に見える出資のメリットが必要
会費	・会員制度導入、会費収入
助成金・補助金	・民間のもの、あるいは国の「新しい公共」に関する補助 など
●営業活動が必要	

○必要な費用

人件費	常駐者、又は日中必ず連絡の取れる人がいる状態をつくる	
通信費	主に電話代	
拠点維持費	・誰かの自宅	携帯電話等の活用で費用削減
	・どこかに間借り	
印刷費・広報費	パンフレットなどの作成	WEBの活用で費用削減
消耗品費	当初は手弁当か？	

○活動カレンダー

H23 年度

6月	7月	8~10月	11月	12~3月
ML作成	7/2 会議	ノウハウの獲得（インターン、見学等）	事務局 立ち上げ	事務局 稼働開始
7/2 までの宿題※	事業準備開始	市内の協力既存団体の発掘		
	運営母体作り	候補地情報収集（観光協会・経済課・WEB募集等）	法人化？	実績作り
	セールスポイントの絞り込み			
ルール作り	ロケ既使用地の情報収集（使用状況等）			

H24 年度

4~6月	7月	9~10月
事務局稼働開始	小金井市予算要求のための 企画案、予算案作り	予算要求（担当課）
実績作り		

※7/2 までの宿題①資金繰りのアイデア②情報収集方法のアイデア③小金井のセールスポイント

### (3) 第8回WS

前回第7回WSで、樹木廃材粉碎事業とコミュニティーポータルサイト運営事業の2事業について話し合いを終了することが確認され、それぞれの事業や経緯について課題など共有した。

よって、第8回WSは(仮称)ロケーションサービス事業のみで行った。この話し合いには樹木廃材粉碎事業とコミュニティーポータルサイト運営事業のそれまでの参加者にも呼びかけ、協働事業としての継続的なかわりも促した。

第8回WSの開催概要を以下に整理する。

○開催日時：平成23年7月2日(土) 9:30～11:30

○開催場所：小金井市役所第2庁舎802会議室

○参加者数：12人

#### ○プログラム

09:30	開 会	○あいさつ
09:40	ふりかえり	○前回の話し合いの確認 ・宿題もありました!
11:20	グループワーク	○宿題の確認 ①資金繰りのアイデア ②情報収集方法のアイデア ③小金井のセールスポイント案
11:30	閉 会	○あいさつ

WSの中で、(仮称)ロケーションサービス事業について継続的に話し合うことを確認し、さらにロケに使用されている市内の各資源について、メンバー間で共有するための「まちなめぐり」の実施、検討が進められた。

「まちなめぐり」の行程は以下の通りとなった。

- ・ 7月30日(土) 南側① 集合場所：三楽の森 時間：8:00
- ・ 7月31日(日) 北側① 集合場所：学芸大学正門前(セブンイレブン) 時間：8:00
- ・ 8月 6日(土) 南側② 集合場所未定 時間：8:00

※「まちなめぐり」の記録は、P25以降の資料編を参照。

また、当日の話し合いの概要を次ページにまとめる。

■ロケーションサービス事業まとめ 参加者：12名

○前回の宿題「資金繰りのアイデア」

→金の使い道は？ 何に費用が掛かるのか いつ・いくら必要か

→金の出所は？行政予算・自己資金 自己資金はどうやって捻出するのか？

「拠点づくり・事務所の設置」が大きな目的

- ・日常的な集まりができ、情報交換ができる場があるといい
- ・役所内会議・公共の集会所→コミ文が手配する
- ・黄金井の里の会議スペース・どこかの事務所に間借りする

今できることはなに？

- ・現場を知る・実績を集める
- ・ロケ地候補集め
- ・写真・動画など場所の情報を集める

○何を求められている？

何を準備する？

- ・誰に何を提供していくのか
- ・だれに何を売り込むのか
- 対象とアピールポイント
- ・対象はメディア制作者？
- ・やるべきこと→プロジェクトチーム

○自分たちでまちあるきを企画・実行!!

- ・小金井の魅力発見まちあるき
- ・テーマは「小金井の北側VS南側」
- ・早朝または夕方の涼しい時間。

これからの運営のすすめ方

- ・現メンバーが核になってすすめていく
- ・核になる人 (WSの参加者・行政を含む)

仲間を集めよう！  
まち歩きイベントを開催

○こんなことも必要

- ・事業の名前 (親しみやすいものに)
- ・協働の体制づくり
- ・イベント (ロケ弁コンテスト etc…)

仲間が集まったら・・・

- 市民に求めるもの  
→情報の提供・ボランティア
- 全体会議と担当会議～ポイントで専門家  
・組織体制の共有化、人材リストの製作

#### (4) (仮称) ロケーションサービス事業の検討の継続

第8回WSを経て、(仮称) ロケーションサービス事業の継続的に話し合い、協働事業として検討していくことを確認した。市内を3回に分けて実施した「まちめぐり」以降も、本事業についての話し合いは定期的に設けられ、考え方や枠組み、取り組みの進め方などについて検討を進めた。

以下に、(仮称) ロケーションサービス事業の話し合いの経緯を整理する。

##### ○ (仮称) ロケーションサービス事業の話し合いの日程

(仮称) ロケーションサービス事業についての話し合いの回数は、「まちめぐり」以降8回を数えた。平成24年度以降の日程も決まっており、自主的な活動が維持されている。

	日 時	場 所
①	10月1日(土) 10:00~12:00	前原暫定集会施設C会議室
②	10月12日(水) 19:00~21:00	喫茶店「フロンティア」
③	10月22日(土) 16:30~18:30	西庁舎第5会議室
④	11月11日(金) 18:30~20:30	前原暫定集会施設2階C会議室
⑤	12月23日(金) 17:00~19:00	武蔵小金井サイゼリヤ
⑥	1月22日(日) 16:00~18:00	喫茶「ウエスト」
⑦	2月26日(日) 15:00~17:00	喫茶「ウエスト」
⑧	4月1日(日) 14:00~16:00(予定)	喫茶「ウエスト」

この間、本事業について検討、確認、実施された項目等について、以下に概略をあげる。

##### ○組織名称について

- ・検討の結果「こがねいロケよび隊」となった。

##### ○進行および議事録について

- ・話し合いの進行、議事録作成について、持ち回りで行うことを確認し進めた。

##### ○自己資金の確保

- ・自主的な活動をめざし、次の3件の助成金申請を行った。
  - ・平成24年度 ゆめ応援ファンド(東京ボランティアセンター)
  - ・平成24年度 中央ろうきん助成プログラム
  - ・平成24年度 URCA まちづくり企画支援事業

##### ○活動内容の告知

- ・平成24年3月3日(土)に開催された、第2回こがねい市民活動まつりの一角に、「こがねいロケよび隊」として活動内容の展示を行った。

### 3) ワークショップ参加者のアンケート結果

#### アンケートの実施

最終回となった第7回協働推進WSに際して、参加者を対象にアンケート調査を実施した。その内容を以下に整理する。

#### アンケート結果

##### 【全体】

- 事業を興す難しさを実感しました。但し、色々な経験とスキルを持った方々が集まり、市職員含めて討議できて楽しかったです。
- 様々な方の意見を聞くことができ、大変有意義でした。  
行政の立場も理解していただけたことと思います。
- 具体的な協働事業をテーマに、市民と行政がこれだけの時間と労力を費やして話し合ってきた実績は貴重であると思う。あり方検討委員会の答申にも反映されることと思う。市民協働の推進のための大きなステップになるのではないか。
- 行政と市民との共通理解が深まると良いと感じました。その可能性を感じた。
- 行政と市民とが同じテーブルで議論することができたことは、とても良かったと思います。この経験はとても貴重な財産であると感じました。
- 参加者の方が、皆さん有意義な話し合いの時間にしようという意識で頭が下がった。
- とても楽しませていただきました。「協働」の定義をすごく考えさせられました。今後もこういった活動に参加したいです。
- 市民と職員がお互いを思いあって、尊重して話し合えた気がして良かった。このワークショップは、協働提案制度につながっていくと思う。

##### 【ポータルサイト】

- ポータルサイト事業については、スタートとは言っても、市民側の動きが見えていないのが、やや不安でした。ロケーションのような形で進めていくというのは、とてもよいと思いました。

### 【ロケーションサービス】

- 活動カレンダーを作ったのはとても良い。具体的な項目をあげることによって、目標や体制作りのための必要条件が見えてくる。（現時点で、あまり細部まで決める必要はないと思う。）メーリングリスト作成についても、早く同じ内容を会議 or 把握できるから、早いうちに作るのがよい。事務局作りが最も重要ですね。
- ものすごくアクティブでびっくり。なかなか話しに追いつけなかったのが残念。次回頑張ります。
- 参加回数を重ね、初めは、軽い気持ちでしたが、実現に向けて、頑張りたいと思います。
- 前回からの参加です。2回だけの参加でしたが、こういった場に参加でき、色々と話し合い意見を交換でき、とても良い経験をする事が出来ました。WSは一段落しましたが、ロケーションサービス事業については、まだまだ継続していくので、自分の意見もしっかり発信できるようにアグレッシブに頑張りたいと思います。
- ロケーションサービス事業の現地視察からの途中参加でしたが、いろいろな市民の意見が聞けておもしろかった。これから実際にどう活動していくのか手探りですががんばりたいです。このような機会を作っていただき、ありがとうございました。
- 夢のある事業で、楽しい話合いではあったが、実際に動き出さなければならないフェーズに来て、実施案作りの難しさを感じた。一步でも前進することを期待します。もっと当事者にならなければ・・・？かな。

### 【樹木廃材】

- 実現するとよかったですが残念です。また別の形で資源循環システムの一部でも広がっていかせたいものです。1つでも2つでも具体的進展に。
- 協働事業について理解していないと、テーマに対する興味から参加したが、協働について、進め方について理解できて良かった。テーマについては、課の範疇での提案で、あまりにも狭いテーマで、環境全体についての話し合いと全体の計画を行政と市民とが話し合えるとよい。
- 市との協働事業に参加し、「樹木廃材粉碎」と「堆肥化」について、勉強できて良かった。事業計画は行政の都合により、中止になったが、協働事業の市民の意思が反映されないのは問題があるので、スタートの時点で、その辺は明確に姿勢を伝えてほしかった。

#### 4) ワークショップの成果と課題

平成22年度から2カ年にわたって開催した「協働推進ワークショップ」としてのプログラムを終えた。初年度は、検討委員会が行った庁内へのアンケート調査を経て抽出された3事業を対象に、WS形式で協働事業の企画、検討を行った。

その結果、取り組み、事業として継続的に話し合い、検討を進めている事業は「こがねいロケよび隊」〔(仮称) ロケーションサービス事業〕である。

「こがねいロケよび隊」は自力で事業スケジュールを作成し、活性化に向けての自己資金を確保すべく助成金申請を行い、目標を決めて活動を続けている。

一方、話し合いを終えた2事業については状況が異なるものの、参加メンバーそれぞれが意見を出し合って、確認されての結論になったと言って良いと思われる。

WSから得られた成果と課題を以下に整理する。

##### (1) 協働事業としての成果

2カ年、全8回のWSを通じての協働事業としての成果をまとめる。

##### ①「こがねいロケよび隊」〔(仮称) ロケーションサービス事業〕

この事業にかかわる活動が継続されていることそのものが大きな成果としてあげられる。基本的な構想はあったものの、そこにかかわる市民、担当課職員の定期的な話し合い、議論の積み重ねは、参加している市民間、市民と行政職員、行政職員間それぞれの関係の醸成に寄与し、考え方や目指す方向を決めていく際の意見の確認や調整が必要なことをプロセスを通じて体験、体感してきている。

同様の取り組みのプロセスが、行政が進める事業、市民活動団体が行う取り組みなどで繰り返されれば自ずと協働が進み、協働を取り巻く環境が改善、構築されていくと思われる。

##### ②樹木廃材粉碎事業

この事業の話し合いには紆余曲折があり、協働の課題ともなった。

言葉の扱い方の違い、物事への対応の仕方の違いなど、協働を進めるに際しての基本的な要件の確認、共有が求められる。これは、実際の話し合いの場だったからこそ短時間で確認できたことであり、その意味で本事業の話し合いにかかわった市民側メンバーが得たものはとても多かったと考えられる。

この反省のもと、今後取り込まれる協働の事業等の話し合いの場において、市民、行政双方のかかわり方、話し合いのスタンスなど注意すべきポイント等を整理する必要がある。

### ③コミュニティポータルサイト運営事業

この事業は、行政側の取り組み実施の意向があり、その意味では話し合いがスムーズに進んだと考えられる。事業の内容や進め方についても、基本的な考え方がしっかりしていたことから、提案の取り込みも容易でわかりやすい話し合いになっていた。

課題は、事業費の確保であり、所定の手続きを経ることにより実現される行政の枠組みでの取り組みである。次年度以降の事業計画に基づいて、コミュニティポータルサイトが開設、運営、維持継続されることによって、新たな協働事業として拡充されていくことを期待したい。

#### (2) 協働推進ワークショップからの課題

2カ年を費やして開催した協働推進ワークショップの経過と結果は、この現場に居合わせた人たちの中に相応の成果をもたらしたと言ってよい。今後もこのような場、機会をできる限り設け、市民と行政職員が具体的な取り組みについて話し合いを重ねることにより相互理解を促進する必要がある。時間はかかるが、このような取り組みを継続することが結果的に協働環境の醸成に至る近道であると考えられる。

協働推進に向けての課題を改めて以下に整理する。

##### ①情報の共有と理解

- ・市民、行政の立場や取り組み方が異なることを双方が理解すること。

##### ②場、機会の創出

- ・事業や実施する取り組みなど、具体的な内容、事象についての場、機会をできる限り多くつくる。

##### ③実現に向けて

- ・協働環境の構築に向けて、市民、行政双方の積極的な姿勢が不可欠である。

## ■ 3 市民協働団体情報運用の 先進市調査

協働推進に取り組む自治体のヒアリング調査を行った。

ヒアリングの内容は、後段に作業内容をまとめた市民活動団体情報調査につながる、各市が発行している「市民活動団体情報一覧」についてである。

小金井市近郊の自治体のうち、市民活動団体の情報一覧を作成している、相模原市、小平市、調布市の三市の担当課および中間支援組織に対し、その作成の目的、作成の手順、情報公開や更新の方法などについてヒアリング調査を実施した。

ヒアリングに際しては、ヒアリング項目などを事前に確認し、ヒアリング調査日時の調整などとともに先方に内容を伝えて設定した。なお、作業はコミュニティ文化課、NPO法人ひ・ろ・こらば、準備室と協議、連携しながら進めた。

ヒアリング調査の概要を以下に整理する。

### 1) ヒアリング調査の日程

ヒアリング調査は下表の日程で行った。

	ヒアリング調査先	日時	参加数
①	さがみはら 市民活動サポートセンター	2011年6月7日(火) 14時30分～15時30分	6名
②	小平市市民活動支援センター	2011年6月8日(水) 10時～11時	6名
③	調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センター	2011年6月8日(水) 15時～16時	6名

## 2) ヒアリング調査の概要

ヒアリング調査の概要を以下にまとめる。

### ①さがみはら市民活動サポートセンター

- ・日 時：2011年6月7（火）14時30分～15時30分
- ・場 所：けやき会館 3F
- ・出 席：さがみはら市民活動サポートセンター 水澤事務局長、工藤氏、古川氏  
相模原市企画局市民部市民協働推進課 伊藤主任

### ○「さがみはら市民活動団体ガイドブック」と市民活動団体検索機能「ボラディア」作成の経緯

- ・約7年前にさがみはら市民活動サポートセンター、相模原市福祉協議会ボランティアセンター、国際交流ラウンジの3団体が集まって登録団体を一本化し、1つのリストにまとめた。

### ○「さがみはら市民活動団体ガイドブック」作成の目的

- ・ボランティアに参加したい市民が相談に来たときに、すぐに対応するために作成した。
- ・さがみはら市民活動サポートセンター、相模原市福祉協議会ボランティアセンター、国際交流ラウンジの三団体の横断的な連携も期待している。

### ○掲載されている団体情報と管理や情報の更新

- ・検索のページはサポートセンターのもので、最終的なページは各課のサーバーにアクセスする仕組みになっている。
- ・更新は年に一回を目指していて、登録している情報をプリントアウトし変更点などを記入し返信してもらっている。返信のない団体には督促の電話をかけている。
- ・情報の変更なども随時受け付けておりスピードが重要なので早めに情報を回収している。
- ・連絡先の掲載されていない団体情報の要望があった場合は、サポートセンターが仲介を行っている。
- ・全体で700団体のデータが集積されている。
- ・データの管理などはサポートセンターが通常の業務内で行っている。
- ・サポートセンターは独自に団体名簿を作成しており、当初は300団体位あったが現在は100団体程度。

### ○「さがみはら市民活動団体ガイドブック」への問い合わせや、ユーザー側の反応

- ・連絡先が非公開の団体に対しての問い合わせは少数ある。
- ・インターネットでの連絡先の公開に関しての反応は特にない。

### ○団体の情報の管理、検索サイトの運営上の課題

- ・データベースの製作にあたって、スタッフに退職された元 SE の方がいたから可能だったが、いなくなったあとの管理などをどうするかが課題である。

#### ○団体の連絡先などの個人情報の公開に関して

- ・趣味の団体など、連絡先の公開に対して抵抗のない人もいたが、中には、公開したくないという団体もある。そういった団体には公開することでのメリットなどを説明し、公開を勧めるようにしている。

#### ○「さがみはら市民活動団体ガイドブック」の今後の方向性など

- ・さがみはら市民活動サポートセンターが設立して10年になるが、サポートセンターの存在を知らない市民もいるので周知をしていきたい。

#### ○その他

- ・社会貢献していないと思い登録を削除して欲しいという団体もいるが、知らず知らずに社会貢献している場合があるので、そのことを説明するのもサポートセンターの役割だと思っている。

#### ②小平市市民活動支援センター

- ・日 時：2011年6月8日（水）10時～11時
- ・場 所：小平元気村小川東 2F
- ・出 席：小平市市民活動ネットワーク 長瀬理事長  
小平市市民活動支援センター 池田副センター長  
小平市市民活動ネットワーク 伊藤副理事長（事務局）  
小平市市民生活部 大竹主査

#### ○市民活動団体データ集「むすぶ」作成の経緯

- ・平成12年度に内閣府委託調査小平市市民活動モデル調査事業を行った際に、集めた市民団体の情報の有効利用を目的に作成した。

#### ○「むすぶ」作成の目的

- ・ボランティアに参加したい人や、団体同士の連携の手がかりとして、が主目的としてあげられる。
- ・また、小平市に引越ししてきた人などが、市内の状況や活動を知るためのツールとして使われることも多い。

#### ○団体情報の掲載に関して

- ・掲載している団体は社会貢献している団体が掲載されている。
- ・センターへの登録内容と、団体の活動内容の掲載には整合性を図っていく必要がある。
- ・インターネット上ではPDF形式で公開している。

- ・アンケート形式で用紙に記入し、平成22年から公開している。
- ・冊子では掲載しているがインターネット上では団体の情報を掲載していない団体もある。
- ・連絡先の公開していない団体との連絡はセンターが仲介している。
- ・掲載団体の募集は市報などを通して積極的に行っている。

#### ○製本版、市民活動団体データ集「むすぶ」について

- ・掲載した団体に情報フィードバックのため直接渡している。（郵送費が予算にないため）
- ・市役所や地域センターには、設置している。公民館では、閲覧できるようにしている。
- ・民生委員にも渡している。
- ・毎年、500～1000部を発行している。
- ・センターの委託費で「むすぶ」を製作している。（印刷費として87万円程度）

#### ○団体情報の更新について

- ・更新は毎年行っており、掲載されている情報と一緒にアンケートを送付し確認してもらう形で情報を回収している。

#### ○問い合わせや、団体の連絡先の掲載によるトラブルなど

- ・何のためアンケートなのか、団体の情報がどのように使われているのか、などの問い合わせが入る。
- ・特に連絡先の情報をめぐってのトラブルは起きていないが、それだけ知られていないからかもしれない。

#### ○その他

- ・登録している団体に冊子を送る予算はなかったため、全て手で配った。大変だったが、顔が繋がったのでよかった。
- ・市役所内でも「むすぶ」を利用している部局がある。
- ・ボランティアに参加したいをいう人に対応するためにセンターでも「むすぶ」を活用している。

#### ③調布市市民プラザあくろす市民活動支援センター

- ・日 時：2011年6月8日（水）15時～16時
- ・場 所：調布市市民プラザあくろす
- ・出 席：調布市市民活動支援センター 朝日副センター長、田島氏、三島氏

#### ○「市民活動団体リスト」と「サークルガイドブック」作成の目的

- ・ボランティアしたい、活動に参加したい人に紹介するために作成した。
- ・情報発信の1つの手段として冊子とインターネットの検索機能を作成した。

#### ○掲載されている団体の情報の管理

- ・団体に対して ID とパスワードを教え、インターネットに掲載されている、各団体の情報の更新を行えるようにしている（承認式）が利用者は少ない。
- ・年に 1 回全体版の更新を行っている。そのときには登録されている団体の情報を送付し、訂正箇所などの校正を行ってから返信してもらう。
- ・検索システムの日々の管理が大変で、たいへん手間がかかる。
- ・全体で約 4 2 0 件のデータを管理している。

#### ○「市民活動団体リスト」と「サークルガイドブック」の冊子版について

- ・ボランティアセンターで冊子の内容とデザインを決め、調布市が印刷を行っている。
- ・印刷部数は 1 5 0 0 部で、公共機関や掲載している団体に配っている。数年前に 1 0 0 0 部から 5 0 0 部増やしたが、1 0 0 冊ほど余るので印刷部数を減らす話が出ている。
- ・平成 2 1 年から「市民活動団体リスト」と「サークルガイドブック」の二つの冊子へ分けた。

#### ○団体の連絡先の記載に関して

- ・初期は団体の連絡先を記載していなかったが、問い合わせを減らすため、また NPO 法人は情報公開が基本などの観点から、団体の連絡先を記載するようになった。
- ・連絡先は公開と非公開があり、非公開の場合はボランティアセンターが連絡を取り次いでいる。

#### ○市民からの問い合わせやトラブルなどについて

- ・行政から団体への問い合わせの連絡がある。
- ・連絡先の公開に関してのトラブルはこれまで起きていないが、個人情報などの取り扱いは慎重に行っている。

#### ○「市民活動団体リスト」と「サークルガイドブック」の今後の方向性

- ・今後も更新を行っていきたいが、登録している団体が増えているため、冊子が年々厚くなっている。今年度は 2 0 ほどの団体が増えるので、また数ページ厚くなる。
- ・掲載する団体が増加した理由としては、サロン活動が多くなり、登録する団体が増えたこと、新しい NPO 法人に対して積極的に声をかけていることがあげられると思う。

#### ○その他

- ・冊子とインターネット検索システムの作成は、ほぼ同時期に始まった。
- ・以前はタッチパネル式の団体情報の検索コーナーを設置していた。
- ・インターネットの検索システムは市内の業者に委託し、月に一回ボランティアセンター生涯学習交流推進課、システム業者の三者で会議を行っている。
- ・3 月 1 1 日の震災以来アクセスが増えた。

## ■ 4 市民活動団体リスト作成

平成23年度は、本市での協働推進に向けてその基礎的な情報の整理、管理をめざし、市民活動団体情報の整理、とりまとめを、協働事業WSのフォローアップ作業と並行して行った。この作業は、協働の枠組みを整える検討委員会での検討とともに、様々な角度から小金井の「協働環境」を整えるための過渡的な取り組みであり、今後も継続的に進めていくことが求められる。

収集、整理した市民活動団体情報は、冊子および市HP上で公開することにより、市民団体間、市民団体と行政などの情報交流を図り、さらに新たな市民活動への参加を促していくことが期待される。

本調査で進めた作業の概要を以下に整理する。

作業は、コミュニティ文化課、NPO法人ひ・ろ・こらば、準備室の3者で協議、連携しながら進めた。

なお、冊子「平成23年度版こがねい市民活動団体リスト」は別途作成している。

### 1) 作業の進め方

本調査で進めた作業の手順は次の通りである。

市民活動団体情報の所在の確認、情報の提供依頼

↓

市民活動団体情報の一覧作成（重複情報の確認、整理）

↓

市民活動団体登録用紙の発送、回収

↓

市民活動団体登録用紙の情報入力、確認

↓

公開する情報の確認、冊子作成に向けての情報確認、整理

↓

冊子「平成23年度版こがねい市民活動団体リスト」の作成、データの引き渡し

## 2) 情報の整理

庁内各課および関連する組織等が保有していた市民活動団体の情報を確認、整理し、市民活動団体登録用紙の送付リストを作成した。

整理に際しては、各団体の基礎的な情報を入力し、重複する情報を確認、精査した。

※庁内各課が保有する目的外利用無しの団体については、第3回情報公開・個人情報保護審議会に諮問し、承認された。

\*市民活動団体登録用紙および記入例については、資料編参照のこと。

## 3) 市民活動団体登録用紙の送付、回収および入力

確認、精査した市民活動団体登録用紙送付リストに基づいて、用紙の送付を行った。市民活動団体登録用紙の送付数、回収数は以下の通りである。

○送付数：462通

・このほか、公民館、児童館に設置した

○回収数：290通

・総回収数302通から内容の不備、重複等12通を差し引き、冊子への掲載は290団体

回収した市民活動団体登録用紙をエクセルに入力し、内容の読み合わせ、確認を複数名で3回行った。

## 4) 冊子の作成

確認した市民活動団体情報に基づいて、「平成23年度こがねい市民活動団体リスト」の編集作業を行った。

冊子には、市民活動団体情報に加えて市民活動に役立つ情報を付加し、「つかう つたえる つながる 市民活動便利帳」として冊子後半にまとめた。

---

---

平成 23 年度  
協働推進ワークショップ委託事業  
報告書

小金井市市民部コミュニティ文化課  
小金井市前原町 3-33-27 前原暫定集会施設  
電話 : 042-387-9923  
メールアドレス : s030299@koganei-shi.jp

---

---